

# 学校だより

# 翔 空

No. 50 平成25年 3月19日 (火)  
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

## 「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、<sup>ふうこうめいび</sup>風光明媚なこの<sup>まなびや</sup>学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

### 【今年度の反省】

今年度は、自分の思うところの7割程度しか実践できませんでした。2年前の8月1日の着任から早1年と8ヶ月が経とうというのに、残念ながらも残るものがありません。

学校は、地域の文化財。そして学校は地域と協力する存在でなければなりません。地域と一体となれば、先立って実践が伴わなかったと今改めて感じます。

残された次年度への大きな課題は、

- 1) いかにして生徒の自主性をさらに伸ばしていくか(発表力を含む)
- 2) 生徒の進路実現をより良いものにするため、どうやって学力を向上させたらよいか
- 3) 放射線と共存していくためにも、何ができるか

の3つをしっかりと考えることです。

過日行われた卒業式の様子を見ると、1・2年生の成長ぶりが目ましく、新しい息吹が感じられます。

「やればできる」の気概を持ってほしいと思います。

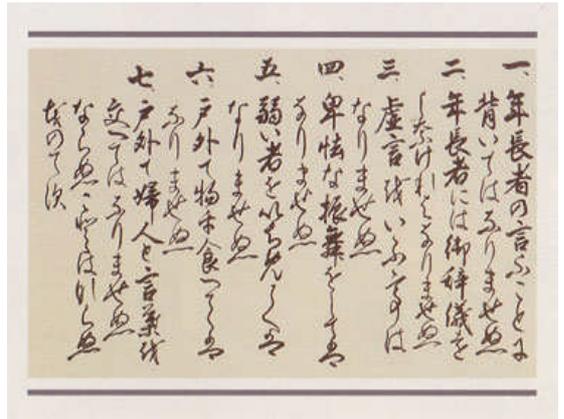


## 今年も1年間お世話になりました!

～最終号は、日新館の教えでしめくり～

### 今年度のNHKの大河ドラマ「八重の桜」で一躍有名になりました

「(じゅう)の掟」が、別名「ならぬこと」として有名です。ドラマの中でも西田敏行扮する西郷頼母が台詞の中で、幼い頃の八重に向かって「いくら子どもでも、ならぬことはならぬものです」と重々しく言って聞かせる場面は、特に感慨深く拝見しました。



多少、これに関して説明を加えると、まず、江戸時代、同じ町に住む六歳から九歳までの藩士の子供たちは、十人前後で集まりをつくっていました。この集まりのことを会津藩では「什(じゅう)」と呼び、そのうちの年長者が一人什長(座長)となりました。毎日順番に、什の仲間のお話の一つひとつみんなに申し聞かせ、すべてのお話が終わると、昨日から今日にかけて「お話」に背いた者がいなかったかどうかの反省会を行いました。

その什の掟を現代語に再現すると、

- 一、年長者(としうえのひと)の言うことに背いてはなりません
  - 二、年長者にはお辞儀をしなければなりません
  - 三、嘘言(うそ)を言うことはなりません
  - 四、卑怯な振舞をしてはなりません
  - 五、弱い者をいじめてはなりません
  - 六、戸外で物を食べてはなりません
  - 七、戸外で婦人(おんな)と言葉を交えてはなりません
- ならぬことはならぬものです

最後から2つめ、1つめあたりは今では通用しないのかも知れませんが、他はすべて現代にも十分に通用するものです。最後の文句が有名になっているのですが、一から七までのすべてを集約した言葉となっています。現在では、会津若松市内の小中学校では、各クラスとも、「あいづっこ宣言」というものを掲示して、事あるごとに唱えさせています。ここまで徹底して教えることはないとしても、本校でも、全校で取り組めるスローガンのようなものを作りたいような気がします。